

一般社団法人 高知県作業療法士会ニュース

よきこい にゆるす

発行：平松真奈美

編集：森 祐輔



発行所：一般社団法人
高知県作業療法士会 広報局

事務局：〒780-0822
高知県高知市はりまや町1丁目5-29
マンハッタンビル6階

<http://kochiot.com>

令和2年度総会を終えて

会長 平松 真奈美 (高知リハビリテーション専門職大学)

感染症拡大の状況を鑑み、総会の開催日を延期しておりましたが、感染症拡大防止対策として、多くの会員の皆様に出席に代わる委任状での意思表示をいただき、無事令和2年6月14日(日)に、議案を承認していただくことができました。

今年度は、より地域社会に貢献できる人材を育成するために組織の一部を改編し、さらなる事業展開を進めます。これまでの「地域包括推進部」の事業内容が、多様化したことから事業内容で区分し、「地域包括総合事業部」では介護予防および地域ケア会議等の地域包括ケアシステムに関すること、「地域連携部」ではMTDLPや認知症・障害福祉に関することとしました。また、「子ども発達支援部」では、学校や幼稚園・保育園における特別支援教育に限らず、発達障害の方々への幅広い支援に関すること、「高齢者・障害者の自動車運転支援委員会」では、近年の社会問題化している高齢者の自動車運転を踏まえ、高齢者・障害者に対する自動車運転支援に関することとし、新たに事業として加えました。これらを始めとし、高齢者・障害者の地域生活における様々な生活課題に対する支援として、行政の施策への協力体制を構築できるように取り組むとともに、研修会を実施する等、会員のスキルアップに向けた事業運営を行います。そして、「臨床実習指導者講習会」は、(一社)日本作業療法士協会の生涯教育システムに位置づけられることから、生涯教育部にて運営し、後輩育成のための支援体制も継続いたします。



しかし、感染症が未だ収束をみない状況であることから、感染症対策として「三密」を回避する等、適切に実施する必要があります。各部・委員会および理事会にて、十分検討をしたうえで、順次ご案内をさせていただきます。

役員も新体制となりました。新しい理事とともに、各部・委員会一同が協力して会の運営を進めていきます。会員の皆様のご理解とご協力を、何卒よろしくお願いいたします。

会長 平松真奈美
(高知リハビリテーション専門職大学)
副会長 浅川 英則 (久病院)

副会長 岡村 忠弘
(NPO 法人脳損傷友の会高知青い空)
副会長 畑田 早苗
(土佐リハビリテーションカレッジ)

新理事挨拶 (五十音順)

有光 一樹 (高知リハビリテーション専門職大学)



今回、初めて理事に就任させていただきました有光一樹と申します。今まで、地域包括推進部で3年間部長をさせていただき、地域包括ケアシステムにおける県の動向や各市町村による違いなど多くの勉強をさせていただきました。市町村の地域リハビリテーション活動支援事業に参画させていただいた時に、作業療法士の専門性は地域で暮らす高齢者や介護予防の啓発、普及に取り組む地域包括支援センター、行政の方にとっても役に立つスキルであると実感しました。地域の方も ADL・IADL の低下は QOL を低下させる一要因です。その ADL・IADL を支援する専門職は作業療法士が最も得意とする領域であり、当然地域に作業療法士の専門性は活かされるということです。

その専門性を皆さんが地域で活かせるように行政や地域包括支援センターに働きかけ、地域で活躍できる土台作りを行い、作業療法士の職域拡大に努めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

稲富 惇一 (土佐リハビリテーションカレッジ)



今期より理事に着任いたしました稲富惇一と申します。まずは、新型コロナウイルスの影響により、皆様が心身の健康を崩されないことをお祈り申し上げます。

私は、学術部担当理事として任期内に「士会の学術誌を創刊」したいと考えています。

高知県は課題先進県として全国から動向が着目されており、それに応えるかたちで本県には全国に先立った取り組みを行っている作業療法士が多く在籍しています。これらの活動は非常に価値が高く、同職種だけでなく他職種・他業種にも発信し、尚且つ後世に残していくためにも学術誌の創刊が重要であると痛感しています。

創刊の際には士会員の皆様から、様々な取り組みを投稿していただきたく思っておりますので、ご協力いただくと幸いです。

学術分野をはじめ、士会員の方々と協力し合い後輩育成や士会の更なる発展に寄与する所存です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

姫田 敬 (だいちリハビリテーション病院)



今期より理事を務めさせていただくこととなりました姫田敬と申します。今回、地域連携部を担当させていただく事となりました。地域連携部は、地域生活を支援する施策に対応していくために、MTDLP 班・認知症班・障害福祉班で構成されている部であり、士会員の皆様が高知県ならびに各市町村の施策における事業への参画ができるように、現場への視察・研修会の開催等に取り組みます。

地域に必要な作業療法士の専門性を活かされるよう、多職種や行政との『連携』を大切にしていき、士会の発展・活躍と県民の皆様の医療・福祉・保険等において貢献できるように努めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

新人作業療法士の紹介

今橋 亮介 (海辺の杜ホスピタル)



OTをめざしたきっかけ

物心ついた頃より祖父が入院しており、お見舞いに行くうちにリハビリという職種がある事を知り自分も誰かの役に立ちたいと思いました。

初給料の使い方

長財布を約4年使用していましたが、チャックも壊れて周りの方から「筆箱みたいやき、違うのに変えや」と散々言われていたこともあり、心機一転コンパクトな二つ折りの財布をインターネットで購入しました。

今後の抱負

まだまだ業務を覚える事や、より良いユーザーさんとの関係性作り等課題は沢山ありますが、できる事を増やして、ユーザーさんから「この人なら任せられる」と思われ、周りから親しまれる作業療法士を目指したいと思っています。

下元 朝美 (近森オルソリハビリテーション病院)



OTをめざしたきっかけ

当初の病院のイメージは、暗くて、怖くて、毎日誰かが苦しんでいるイメージがあり、医療に携わる仕事だけはやりたくないと思っていました。

しかし、私の母親が進行性の病気を患ったことがきっかけでした。毎日痛みと恐怖と戦いながら、どんなに苦しい時も私の為に一生懸命仕事をしてくれる母親を見て、誰かの役に立ちたい、お母さんみたいに困っている人を元気付けたいという想いが大きくなっていきました。保育士だった夢がいつしか作業療法士になりたいという想いになり、高校3年生の時に医療の仕事に就こうと決意しました。

初給料の使い方

感謝の気持ちを込めて、両親へお金を手渡しました。

今後の抱負

誰かの役に立ちたいという想いは変わらないので、初心を忘れず日々学び続けていきたいです。

岡村 佳歩 (いずみの病院)



OTをめざしたきっかけ

祖父が脳出血で倒れ、入院中も覇気がない状態が続き、その時に、作業療法士の方々が祖父に対し熱心にリハビリを行っていただく中で、徐々に笑顔が見られるようになりました。その笑顔を見た時に「私も病気で苦しんでいる人をリハビリで笑顔にしたい」と思うようになり、作業療法士の道を選びました。

初給料の使い方

食えることが大好きなので、少し高めのお肉を買って、家で焼肉をしました。

今後の抱負

知識や技術を磨き、経験値を高めることはもちろんのこと、患者さまの気持ちに寄り添うことを忘れずに、それぞれの方に合わせたリハビリを模索しながら提供していけるよう励んでいきたいです。